

アメリカ 暴走するオバマの欺瞞
シリア空爆前夜

映画 「公式引退」で世界が失うもの
宮崎駿、巨匠の哲学

ニュースウィーク日本版 定価450円
Newsweek

世界遺産と噴火のリスク
富士山の危機



「10」三十九日五時発行 毎週火曜日発行 九十九日発売 第二十八巻三十五号 三〇五五

2013
9・17

Newsweek Table of Contents

September 17, 2013



SEIYUN/REUTERS, OLOPH/REUTERS, WIKIMEDIA COMMONS

Cover Story 富士山の危機

世界遺産登録と相次ぐ噴火の予兆——
日本のシンボルが抱えるリスクの実像に迫る

環境	世界遺産登録で富士山が危ない	38
インタビュー	噴火したら登録は取り消し?	43
火山災害	日本の象徴に静かに迫る大噴火のXデー	46
■図解	近隣都市を襲う恐怖のシナリオ	48
イタリヤ	ベズビオ火山を襲う「想定外」	52

人物	世界を魅了した宮崎駿の哲学	58
	国内外のアニメファンに感動を与えてきた「ミヤザキ」の引退で失われるもの	

NewsBeast

International List

THE UNITED STATES	マケインは勝負事がお好き	13
SYRIA	アサド排除を目指すオバマの切り札	14
BRAZIL	アメリカのスパイ行為にブラジルが激怒	15
KENYA	国際機関を脱退するケニアの悪あがき	
VENEZUELA	ベネズエラの新聞に紙不足の危機	
IRAN	イラン新大統領が穂健ツイートを連発	17
BRITAIN	議会よりボルノ、英政治家のネット事情	

Asia

CHINA	習近平が「トラ退治」を迫られる	19
NORTH KOREA	悪童のバスケ外交に意外な期待の声	

U.S. Affairs

シリア空爆論にプッシュ派がモノ申す!	20
--------------------	----

Business

ヨーロッパ景気復調はただひとときの祭り騒ぎ	21
-----------------------	----

People

引退・宮崎駿が次に見せる「世界の秘密」は	22
----------------------	----

Features

中東危機	シリア軍事介入、オバマの自滅	24
両論	武力介入の是非、その根拠	26
論点	「これは戦争ではない」の欺瞞	28
ロシア	プーチンがシリアをかばう理由	29
政府軍	空爆パニックで脱走兵続出	30
原発事故	氷の壁はフクシマを救えるか	32
中国	中国独裁をTEDで称えたら	34
犯罪	インド集団レイプ、少年の温情判決に怒り	36
ヨーロッパ	優等生国家の光と影	55
しつけ	偏食しない子はこうして作る	56

Culture

Movies	アジアに伸びるハリウッドの下心	60
Movies	チャン・ツイーが語る「タブー」	61
Movies	「私が愛した大統領」の人間味	62
Art	大人の絵画教室は飲んで、描いて	63

Departments

Perspectives	5	Letters	68
News Gallery	8	Tokyo Eye	70
Picture Power	64		

COVER: Toru Hanai—Reuters

雑誌25253-9/17ニュースウィーク日本版 2013年9月17日号 (第29巻35号、通巻1365号) ©2013 The Newsweek/Daily Beast Company LLC ©2013 Hanjuku Communications Co., Ltd.
 郵政特許・複製を禁じます。編集部へのお問い合わせは 〒153-8541 東京都目黒区日原1-24-12 株式会社産経コミュニケーションズ ニュースウィーク日本版編集部へ TEL 03-6436-6750 FAX 03-6496-7561 日本ABC協会加盟誌 (新聞雑誌部数公表機構)

NEWSWEEK JAPAN (ISSN 0912-2001) is published weekly except for three combined issues per year mailed in April, August and December, respectively. Annual subscription rate is US\$300.
 Second Class postage paid at New York, N.Y., and at additional mailing offices.



女性に人気 リラックスできる雰囲気も心も開放的にする？

“PaintNite” Blends Art and Cocktails

大人の絵画教室は飲んで、描いて

トレンド ワイン片手に筆を持つ
リラックスしたスタイルが人気

レシピは簡単——絵画教室にバーを加えて、軽くシェイク。酔っぱらって顔が絵の具だらけになるような楽しい夜。「ペイント・ナイト」の出来上がりだ。アメリカでは今、バーテンダーのいる映画館や、シャンパン片手に髪を整えてもらう美容室など「アルコール付き」のイベントが人気。バーと絵画教室が一緒になったペイント・ナイトもその1つだ。「クリエーティブに飲もう」「初心者歓迎」を合言葉に、生徒たちは一杯引っ

掛けながら絵を学ぶ。7月にニューヨークのレストラン、レベルで開催されたペイント・ナイトでは画家のジョナサン・リービーが筆を洗う水と、ウオッカソーダやワイン、ビールを間違えないように注意していた。それは「よくあること」だそう。この日の題材は、海岸線に沈む夕日を描く「楽園の島」。リービーによれば、飲みながらだとみんなりラクスできて、自分の絵が不恰好でも気にしないという。

「スタイル・オブ・ネイチャー」シリーズで知られる彼は以前、子供向けの絵画教室で教えていた。お金が稼げるし、自分の宣伝にもなると思いペイント・ナイトに加わった。「酔った大人に教えるのは子供に教えるよさなものだ」と話す。イベントの開催地はニューヨーク、マイアミ、トロント、ロンドンなど約30都市。毎週50人以上の画家が、250以上の会場で教えている。参加者は好きな場所で、レベル別にレッスンを

を選ぶといい。指導に当たって画家たちは、1枚の作品が仕上がる様子が分かるように、制作過程ごとの見本を用意しなければならぬ。こうすれば初心者にも理解しやすくなる。

自分をさらけ出せる
画家はレッスン代だけでなく、自作を人前で披露して自らの腕前を磨く機会も得られる。「思わぬ幸運がたくさんある」とリービー。彼の教え方は、爽めて

伸ばすスタイルだ。絵が得意でない人でも構図を守りつつ、その人ならではのセンスが出るよう手助けする。「彼の指示は、はつきりとしていて分かりやすい」と、ペイント・ナイトの設立者タニエル・ハーマンは言う。ハーマンは、大学でランドリサービスを提供するレイジー・ボーン社の創業経営者でもある。その共同経営者ショーン・マクグレイルと共にペイント・ナイトを立ち上げた。アイデアを思いついたのは友人の誕生日パーティーでのこと。その後、カクテルを飲みつつ雑談を重ね、ナプキンに書き留めるうちにビジネス計画が固まっていた。運営会社をボストンに設立したが昨年3月だ。

お酒と創造性が出合うペイント・ナイトは、参加者が個性を表現できる場にもなる。「女性のほうが自分をさらけ出すのに抵抗がない。だからお客は女性が多い」と、ハーマンは言う。料金は通常、約2時間のコースに必要な画材一式が付いて45ドル。収入は画家とペイント・ナイトで分け合う仕組みだ。飲食代は別途徴収され、これが店側の儲けになる。

参加者は絵の具の付いた腕に、自分の作品を抱えて家路に就く。気持ちよく、ほろ酔い気分です。

PAINT NITE

カメレオン

